

2008年度 指導と評価の年間計画

教科	国語	指導学年	第1学年	教科書名	
科目	(学)古典の世界	単位数	2単位	副教材名等	LT古文1(浜島書店) 新国語便覧(第一学習社)

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目として学習している「国語総合」の古典分野をより一層充実させ、古典の基礎及び理解する能力を育成する。 ・言語文化に対する関心を深め、日本語を尊重して、その向上を図る態度を育てる。
達成目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・主に古文の分野の文章を読み、古典文学への興味付けをしながら、基本的な文法事項、読解力がつくよう指導する。 ・古語辞書(貸し出し)を利用し、自学自習の習慣がつくよう指導する。 ・毎回授業のはじめに前時の復習となる小テストを行う。 ・四年制大学、短期大学の受験に対応できる基礎として意識づけをする。

学期	進度(単元・章・項)	指導内容(項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
前期	第1タイム ・言語事項 歴史的仮名遣い ・「宇治拾遺物語」「古今著聞集」(説話文学)など ・文法 動詞の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に親しみ、古語と現代語との違いを理解する。 ・古語辞典の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・課題プリント ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語との違いを理解しているか。 ・動詞の概念の理解活用とその種類についての理解。
	第2タイム ・言語事項 品詞・動詞・形容詞・形容動詞の活用 ・「伊勢物語」「徒然草」など	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪・奈良を舞台にした題材で古文を身近に感じさせる。 ・品詞、とくに形容詞・形容動詞の見分け方と活用について学ぶ。 ・助動詞(過去「き・けり」)について ・係り結び法則 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・課題プリント ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・形容動詞の概念の理解活用とその種類についての理解。 ・内容理解(特に、文脈把握・登場人物の心情についての原文から読みとり)
後期	第3タイム ・「竹取物語」「沙石集」「平家物語」など ・言語事項 動詞・助動詞の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・概要を理解し、音読を通して古文の感覚に親しむ。 ・動詞、助動詞の理解 ・日本語の特徴についても理解させる。 ・助動詞(完了「き・けり・つ・ぬ・たり・り」断定「なり・たり」)について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・課題プリント ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容理解がどれだけできているか。 ・助動詞の概念、及び活用についての理解。
	第4タイム ・「徒然草」「土佐日記」 ・言語事項 助動詞の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞(打消「ず・じ・まじ」 ・推量「らむ・けむ」「らし・めり・なり・まし」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・課題プリント ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容理解、助動詞の用法・意味についての理解。